

## 神戸新聞を読んで

## 女性の就業率低い理由は



藤島 一篤(ふじしま・かずしげ)＝神戸市

ここ数年、女性の労働力人口は増え続けている。ただし、都道府県別で見ると、兵庫県の女性就業率は下から3番目の低さだ。それはなぜなのか。

内閣府は女性の就業率に影響を与える要因を三つ挙げている。保育サービスの供給量が少ない▽女性の正規雇用比率が低い▽男性の長時間労働比率が高い。この三つは解決がまだ見えない。

16日朝刊1面「待機児童 県内2000人超」では、4年連続で待機児童数が増加し、今後も保育需要が高まる見通しという。同日の社会面には「子育て施策 悩む自治体」とあり、保育料の無償化で転入者を増やした結果、待機児童がさらに増えるという終わりの見えない問題となっていることが分かる。待機児童問題で女性が職

場復帰できず、求職活動もできないとなれば、企業も大いに悩む。私たちが神戸商工会議所と調査した結果でも、女性活躍に必要な行政支援として「保育・介護施設の充実」が最も多く挙げられていた。

17日朝刊総合面では、働き方改革を期待する理由に非正規労働者の処遇改善が上位とある。県内は正規雇用者のうち女性が約3割弱。圧倒的に男性が多い。非正規雇用者の意識について昨年調査したら、正規に変わりたい女性は約5割いた。非正規を長年続け、正規と同等の能力を手にしたにもかかわらず、賃金格差に不満を抱き、就業意欲の低下をもたらしている。

残るは男性の長時間労働の比率だが、兵庫県男性の約15%は週60時間以上働いており、全国ワースト12位である。この問題は女性の離職にも影響を与えているとらみ、かつて女性104人にアンケートした。回答を列挙すると「長時間労働している人に上司は『頑張りなさい』とばかり言う。私も頑張り張っているな!」。私も頑張り張っているのに「短時間勤務のはずなのに残業が続く。上司がそれに気づかない」「子どもが体調を崩しているのに連休がとれず、子どもが『仕事を休んでほしい』」。

長時間労働などで育児休暇・短時間勤務などの制度があっても活用できない「あきらめ」を感じ、離職に向かうことが分かった。これらに加え、女性就業率を高めるには男性の意識改革も必要だ。5月1日夕刊すきつぷ面に、ヴィッセル神戸の田中順也選手インタビューがある。サッカーで結果を残すことが父親としての役割と考えていたが、育児と仕事の両立を通して「3年ほどかけてだんだんと父親に成長した」とある。女性活躍や働き方改革を家族の視点からも伝えていくことが、私たちや新聞の大切な役割と感ずる。

この批評は夕刊4版、朝刊14版に基づいたものです

7月の筆者は、あかし市民図書館長の志水千尋さんです。